

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要			
建物名称	サンライフ桃園公園	BEE	1.2 BEEランク B+ ★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.4 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4点以上	ふつう 3点以上
		がんばろう 3点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル：CASBEE-建築(新築) 2014年版		使用CASBEE評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)	
1 循環型社会への貢献			スコア平均 3.0
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.9	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3 スコア 3.2
グリーン購入法認定製品を採用している		天井高さを上げることで空間を広く見せる様に工夫している	
2 地球温暖化対策の推進			スコア平均 3.5
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.9	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 3
断熱性能を高める等して省エネに努めている		節水性能の高い製品を採用している	
3 豊かな自然環境の確保			スコア平均 2.0
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3 スコア 1
		敷地内の空きスペースに積極的に緑化を行っている	
4 高齢社会への対応			スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	4
車椅子でもアプローチし易い段差のない経路を確保している		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: -	-
		外構緑化指数	15%
		建物緑化指数	0%

:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	サンライフ桃園公園	階数	13
建設地	北九州市八幡東区桃園二丁目3-3	構造	RC造
用途地域	1種住居地域	平均居住人員	192 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2018年3月5日
敷地面積	1,955 m ²	作成者	橋 純平
建築面積	530 m ²	確認日	2018年2月8日
延床面積	4,631 m ²	確認者	橋 純平



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92)

②建築物の取組み 77% (46)

③上記+②以外の 77%

④上記+ 77%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
節水機器等を採用して環境負荷を低減に取り組んでいる 建物の色を落ち着いた配色とし、緑化を行い周辺環境への配慮を行っている		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
風通しが良くなるように各室の建具の配置などを計画している	天井高さを上げることで空間を広く見せる様に工夫している	道路面からの見え方に配慮し、圧迫感を与えない様に塀の高さ、緑化など工夫をしている
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
有効な採光・通風が確保できるように配慮している	グリーン購入法認定製品を採用している	住民の為の適切な量の自転車置場、駐車区画の確保している

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
サンライフ桃園公園

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質							3.1	
Q1 室内環境			0.40		-		3.2	
1 音環境		3.0	0.15	3.2	1.00		3.1	
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.50	3.4	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	LL-40	3.0	-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	LH-50	3.0	-	4.0	0.20			
1.3 吸音								
2 温熱環境		1.3	0.35	3.0	1.00		2.7	
2.1 室温制御		1.7	0.50	3.0	1.00			
1 室温		1.0	0.63	-	-			
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	1.00			
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		2.5	0.25	3.5	1.00		3.3	
3.1 昼光利用		2.4	0.30	4.0	0.50			
1 昼光率	採光に有効な方向に開口部を設置	2.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口				3.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.50			
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		4.2	0.25	4.0	1.00		4.0	
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	ほぼ全面にF☆☆☆☆を採用している	5.0	1.00	5.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.40	2.3	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能				1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.4	
1 機能性		3.7	0.40	4.0	1.00		3.9	
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	4.0	0.60			
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応	最大通信速度100Mbps			4.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	4.0	0.40			
1 広さ感・景観				3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画	コンセプトや機能に配慮する具体的な取り組みを行っている	5.0	1.00	5.0	0.50			
1.3 維持管理		3.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	汚れにくく、傷のつき難い材料を採用している	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30				2.8	
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					

2.4 信頼性			2.4	0.20		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				-	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高さ 2.95以上		-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」等級4に相当	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.86	4.1	0.50		-	4.1
集合住宅以外の評価(3a.3b)				-		-	
集合住宅の評価(3c)		省エネ機器を採用	4.1	1.00		-	
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
集合住宅の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60		-	2.9
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20		-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70		-	
1	消火剤		2.0	0.50		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		リサイクル建材の使用、省エネ設備による1次エネルギー消費量の削減	3.9	0.33		-	3.9
2 地域環境への配慮			1.9	0.33		-	1.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	駐車区画を確保	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	